

第21回京都から発信する政策研究交流大会

家庭の防災意識向上を目指した 子どもへの防災教育の実践的研究

キーワード: 防災教育、災害、家庭

福知山公立大学地域経営学部地域経営学科

谷口ゼミ ちょこっと防災プロジェクト

吉森萌生 木下大生 田藤愛梨 山崎楓真

目次

1. はじめに
2. 現状
3. 実践研究
4. 結果・考察
5. おわりに
6. 参考文献

1. はじめに

【背景】

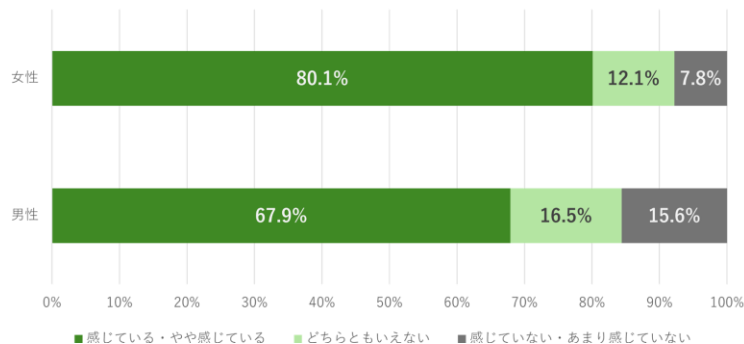
- ・近年の地震多発や、福知山市が水害常襲地域であることから防災の重要性を実感
- ・能登へのボランティアに参加し、事前に備えることの重要性に気づいた
- ・現在、防災教育は主に学校中心であり、家庭・地域での防災教育が不足している
- ・子どもへの防災教育が家庭の防災意識向上の架け橋になると考えた

【目的】

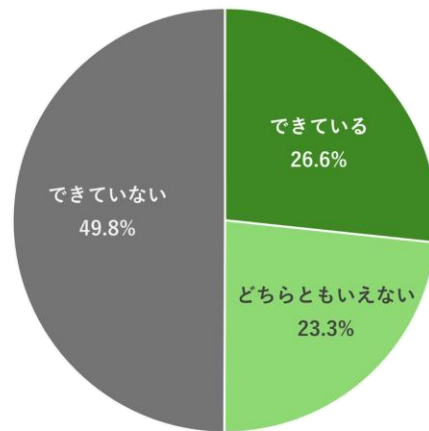
- ・子どもへの防災教育をきっかけに家庭の防災意識を高める

2. 現状①

災害に対して不安を感じている人の割合



在宅時の災害の備えができている家庭の割合



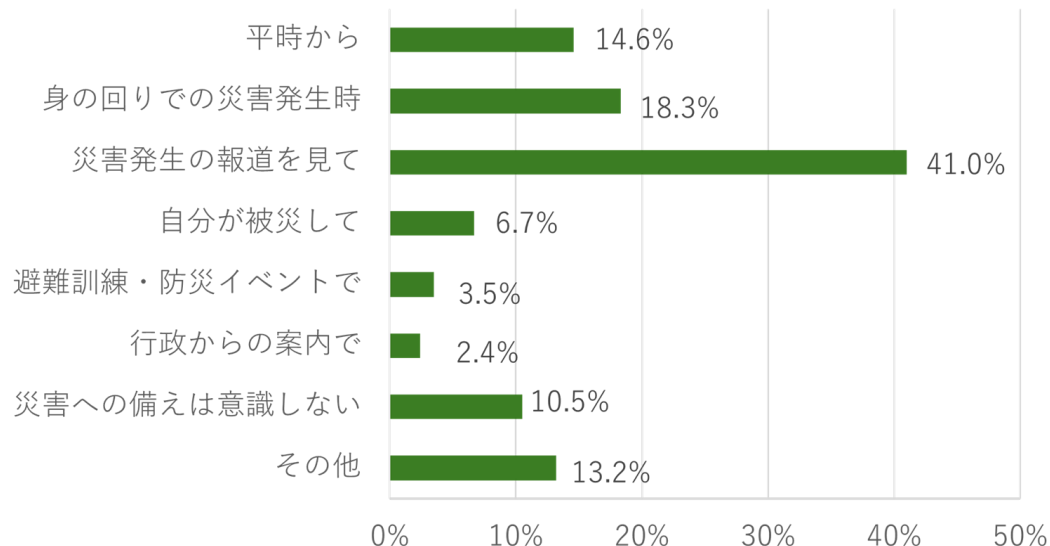
- ・多くの人が災害に不安を感じているものの、実際に災害を意識した防災の取り組みを行っている人が少ない
- ・災害に対する不安が具体的な防災の取り組みに繋がらない

参考:こくみん共済coop〈全労災〉「防災・災害に関する全国都道府県別意識調査」より筆者作成

2. 現状①

具体的な災害対策に取り組むきっかけがない

在宅時の災害の備えをするタイミング



・多くの人は報道を見て備え始め、
平時から災害に備える人は少ない

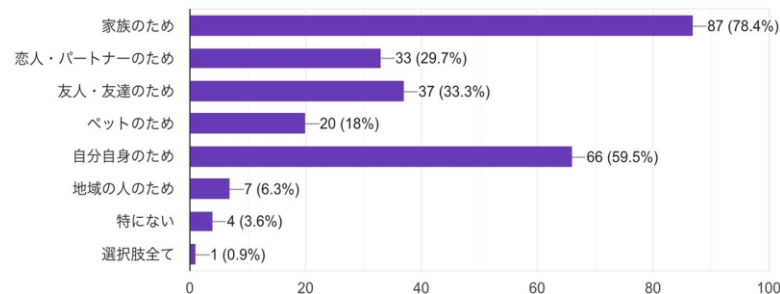
・災害を自分事として捉えるきっかけが
ないと行動に結びつかない

参考:こくみん共済coop<全労災>「防災・災害に関する全国都道府県別意識調査」より筆者作成

2. 現状②

- ▷りとるハピネスでの聞き取り調査からも
- ・災害対策をしなければいけないと思いつつできていないが家族のためなら積極的になれる
- ・子どもの影響力が大きいことが分かった

10. あなたは誰のためであれば防災対策に取り組もうと思えますか。（2つまで回答可）
111件の回答



独自の調査より筆者作成

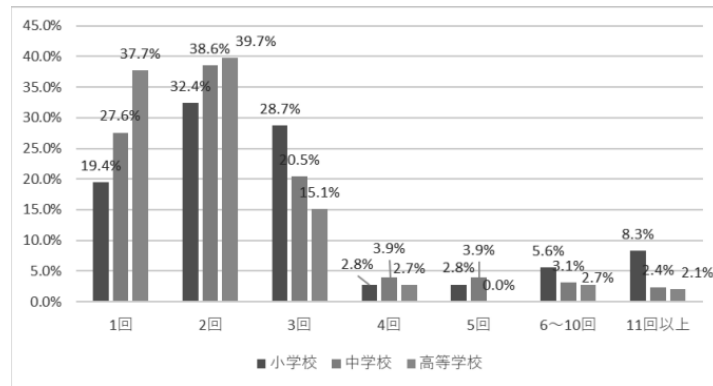
2. 現状②

①「時間」

- 学校では避難訓練や防災教育は実施されている(文部科学省,2019)が**年数回・短時間のみ**

→深い学び・考える時間が確保されず、
防災教育が形だけになっている

▽防災教育の年間実施回数



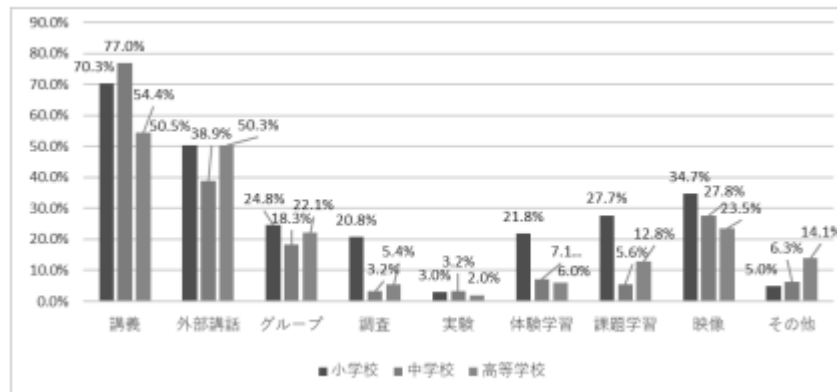
2. 現状②

②「学び方」

- 内容が講義型・避難訓練型に偏り、子どもが**受け身**で参加
- 子供主体のアクティブラーニング型はあまり使われていない

→防災を「自分ごと」として想像できず、
主体性が生まれない

▽防災教育の方法



柴田真裕ら「わが国の学校における防災教育の現状と課題ー全国規模アンケート調査の結果をもとにー」より引用

2. 現状③

福知山市が行っている防災講座

子育て支援拠点りとのハピネス

- 0～2歳児の子どもがいる保護者向け
- 持ち出し品や備蓄品の説明
- 防災紙芝居の読み聞かせ
- 親子で新聞紙で遊ぶ



2. 現状③

福知山市が行っている防災講座

惇明わんぱく村チャレンジ教室 防災教室

- ハザードマップや警戒レベルについて
- 防災紙芝居の読み聞かせ
- 非常用備蓄品についての説明
- ダンボールベットの組み立て体験
- 避難場所を使用するテントを体験



3. 実践研究①

〈調査・見学〉

▷聞き取り調査

- ・株式会社カスタネット:社長 植木力 様
- ・一般社団法人京都ソーシャルビジネス・ネットワーク
:代表理事 小山幸司郎 様
- ・福知山市 健康福祉部 地域包括ケア推進課
災害時ケアプラン推進係
:高橋和利 様
- ・福知山市 防災危機管理室
- ・惇明小学校、大正小学校

▷子育て支援拠点りとるハピネス

:防災講座 見学・聞き取り調査

▷惇明わんぱく村の見学

▷福知山公立大学 学生 (74人):防災アンケート調査

▷惇明小学校 小学3,4年生:防災アンケート調査中

3. 実践研究②

〈ワークショップ〉



○防災おかしポシット作り①

福知山ワンダーマーケット 2024.10.27

目的: お菓子やクイズで楽しく防災について学ぶ
防災を身近に感じてもらう



非常用持ち出し品なあとクイズ

- ・親子や友達と協力してクイズに取り組んでいた。
- ・オリジナルのポシットを作って楽しむ様子が見られた。

3. 実践研究②

〈ワークショップ〉



○新聞紙防災スリッパ作り

福知山ワンダーマーケット 2024.12.22

目的:実際に新聞紙スリッパを履いてビーズの上を歩いてもらうことで、スリッパを備えておくことの大切さを知ってもらう

- ・スリッパの作り方を紙にして持ち帰ってもらうことで、家でも作れるようにした
- ・家族にも作りたいと言ってくれる子どもがいた

3. 実践研究②

〈ワークショップ〉



○防災おかしポシェット作り②

はじめてのPBL(課題解決型学習)

パネルセッション&ワークショップ 2025.3.8

目的: 自分で自分に必要なものを選ぶ主体性を育む
自分以外の意見を聞くことで新しい学びを得る
子供が必要としているものを知る

- ・凝固剤を実際に使ってみる体験をしてもらった
前回よりも防災要素を増やすためにお菓子ではなく
防災グッズを入れた

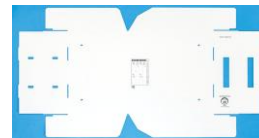
3. 実践研究②

〈ワークショップ〉



OMyきずなぼうさいBOX

惇明地区公民館まつり 2025.10.19



株式会社カスタネットそなえる.comホームページより引用

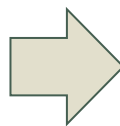
目的: 子どもが防災について自発的に考えるきっかけをつくる
家でも継続的に防災に関心を持ってもらう

- ・子どもたちの絵をきっかけに家族や子ども同士、地域の人との会話が生まれた
- ・家族や友達と話し合いながら防災グッズを選んでいた

4. 結果・考察

〈結果〉

- 防災を身近に感じるきっかけになった
- 実際に体験することで印象に残りやすくなった
- 主体的な学びが促されていた



〈考察〉

- 遊びと学びの時間のバランス
- 単発的な防災教育
→ 継続的な取組に
- 家庭の防災意識向上にどのように繋がったか把握ができない

5. おわりに

- ▶他地域の先行研究を調査
- ▶惇明小学校3, 4年生に行っているアンケート結果の集計
防災について聞いてみたいことや思っていることなど



- ▶福知山市立丘児童センターでの防災ワークショップ

5. おわりに

- ・具体的な行動を起こすきっかけとして、家族の中での防災に関わる会話が必要
- ・大切な人を守るための防災だと考えることで、防災を自分事として捉えられる
- ・これまでのワークショップを通して、実際に家庭でも防災の話をし、具体的な行動に繋がっているのか調査が必要

6. 参考文献

こくみん共済〈全労災〉(2024)「防災・災害に関する全国都道府県別意識調査」

<https://www.zenrosai.coo/bousai-gensai/survey2024.html> (最終閲覧日: 2025年10月20日)

保田真理・齋藤玲・邑本俊亮(2021)「小学生を対象とする防災教育の効果の持続性と家庭への波及: 沿岸部と内陸部の比較」『自然災害科学』, 第40巻, S08号, p.125-142.

吉永真理(2021)「子ども・若者の参画による防災教育の試み: コミュニティ・エンパワメント意識と自己効力感に着目して」『コミュニティ心理学研究』, 第24巻, 第2号, p95-113.

柴田真裕、田中綾子、舩木伸江、前林清和(2020)「わが国の学校における防災教育の現状と課題ー全国規模アンケート調査の結果をもとにー」, 第1号1巻, pp.19-30.

6. 参考文献

株式会社カスタネットそなえる.comホームページ

<https://nurie-box.com/>(最終閲覧日:2025年11月25日)

文部科学省(2021)『文部科学省における防災教育の現状について』令和3年6月23日.

https://www.mext.go.jp/content/20210623-mxt_kouhou01-000019487_2.pdf(最終閲覧日:2025年11月5日)